

コミュニティふらっと本天沼の運営に関する地域懇談会 (第3回)

地域特性を踏まえた運用 説明資料

(1) 人口データ (令和5年4月1日時点)

①人口データ (世代別)

地域名称	総人口	年少人口 (15歳未満)		生産年齢人口 (15歳以上65歳未満)		老年人口 (65歳以上)	
		人口	総人口に 対する割合	人口	総人口に 対する割合	人口	総人口に 対する割合
区内全域	572,468	60,182	10.51%	392,212	68.51%	120,074	20.97%
天沼地域	93,446	2,873	10.67%	18,395	68.29%	5,667	21.04%

②高齢者(65歳以上)世帯数

地域名称	総世帯数	高齢者のいる世帯		高齢者単身世帯		高齢者夫婦世帯	
		世帯数	総世帯数に 対する割合	世帯数	総世帯数に 対する割合	世帯数	総世帯数に 対する割合
区内全域	328,310	89,214	27.17%	65,736	20.02%	43,458	13.24%
天沼地域	15,612	4,224	27.06%	2,088	13.37%	966	6.19%

天沼地域：本天沼1～3丁目、天沼1～3丁目

(2) 近隣施設分布図



【近隣施設】

公立校 : 天沼小学校、沓掛小学校、天沼中学校

私立校 : 日大二中、日大二高

区立施設 : ウェルファーム杉並、コミュニティふらっと東原

※参考資料 : 現況における燃失予測図
震度予測図

(3) 地域の状況等 (小中学生)

○天沼中学校倶楽部

- 放課後や土曜日、夏休みを利用しての学習支援
- 水曜日の放課後、土曜日の午前中に学習支援を実施
- 教員志望の学生ボランティアが勉強をサポートする日もある

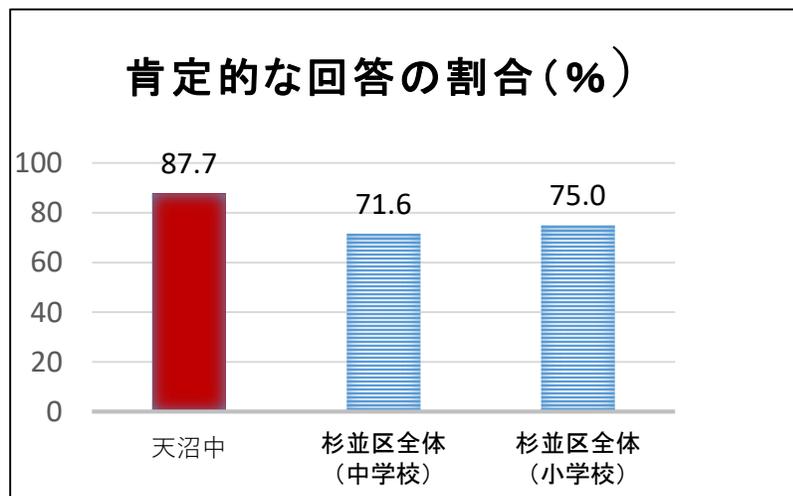
○天沼中だより (令和4年12月8日号)

- 令和4年度に実施した以下の調査の結果概要を報告
 - 「全国学力学習状況調査」 (中学3年生対象)
 - 「杉並区特定の課題に対する調査、意識・実態調査」
(中学3年生対象)

○「全国学力学習状況調査」

学習状況調査の平均正答率：天沼中 72.0%
東京都 70.0%
全 国 69.0%

○「杉並区特定の課題に対する調査、意識・実態調査（3年生対象）」
調査（2）学校・生活についてのアンケート
問1-2「地域の人たちが、あなたの生活や学習を応援したり、支えてくれたりしていると感じている」



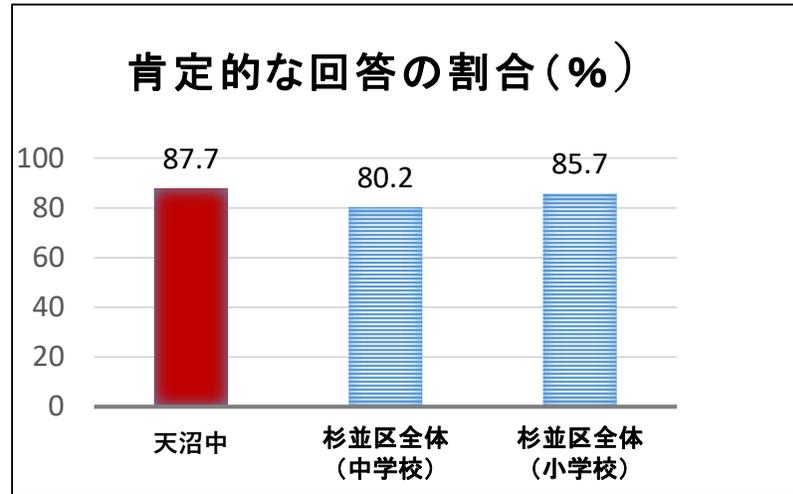
○肯定的な回答の割合

天沼中学校：87.7%

杉並区全体(中学校)：71.6%

⇒天沼中学校が16.1ポイント上回っている

問2-12 「今住んでいる地域に、自分の『居場所』があると感じる。」



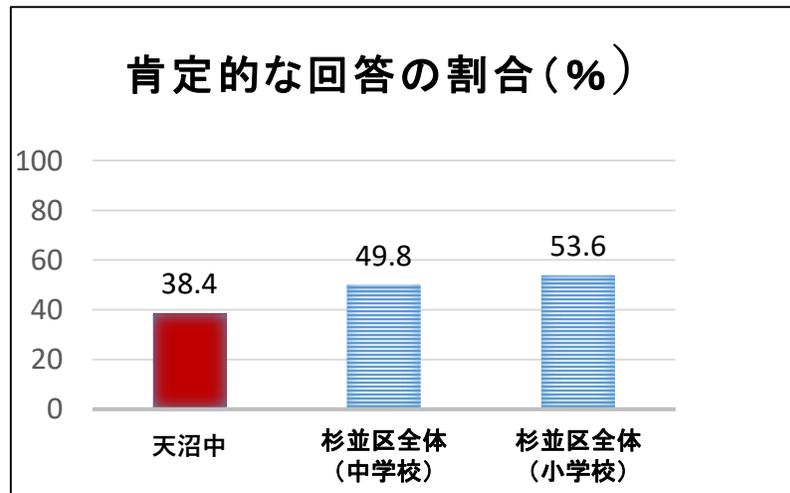
○肯定的な回答の割合

天沼中学校：87.7%

杉並区全体(中学校)：80.2%

⇒天沼中学校が7.5ポイント上回っている

問3-10 「授業中、自分の考えや気持ちを発表することがよくある。」



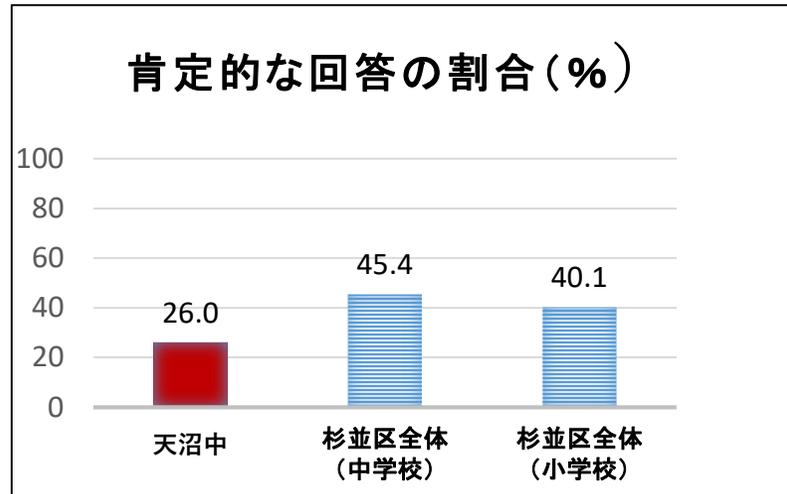
○肯定的な回答の割合

天沼中学校：38.4%

杉並区全体(中学校)：49.8%

⇒天沼中学校が11.4ポイント下回っている

問3-18 「授業では、自分の得意な部分を伸ばしたり、苦手なところを少なくしたりできるように、一人で学んだり、先生が個別に教えてくれたりする時間がある。」



○肯定的な回答の割合

天沼中学校：26.0%

杉並区全体(中学校)：45.4%

⇒天沼中学校が19.4ポイント下回っている

⇒天沼中だより総評（抜粋）

「自分の考えや気持ちを発表する際の消極性、教員への質問への躊躇、不明点に対して積極的に自ら働きかけにくい傾向がみられました。（中略）

『個別最適な学び』の促進に努める必要性を感じました。」

○ A K A 3 校 合 同 （ 天 沼 中 ・ 沓 掛 小 ・ 天 沼 小 ） 学 校 運 営 協 議 会
（ 令 和 4 年 7 月 1 3 日 開 催 ）

- ・ 各 校 の 「 特 色 あ る 教 育 活 動 」 の 発 表
- ・ 5 つ の グ ル ー プ に 分 か れ て 、 教 育 活 動 の 成 果 や 期 待 さ れ る 効 果 に つ い て 情 報 交 換 ・ 熟 議 を 実 施

【 当 日 の 意 見 （ 抜 粋 ） 】

- ・ 杉並区の中学生レスキュー隊（防災活動） には毎年70～90名の生徒が参加しているが、こうした活動のように「地域のために何かできないか」という視点に立った学習を考えてもいいのではないか。
- ・ 「地域と防災」 を 3 校 合 同 の テ ー マ と し て は ど う か 。

【当日の意見（抜粋） 続き】

- ・ 期待する学びは、学校内外において小学校低学年から自分の意見を発言し続けることである。
- ・ 3校が連携できることは、二つある。
 - ① 継続性のある直接経験
例えば、畑で作物を育てる・伝統芸能や文化にふれるなどの直接経験からの学びを続けること
 - ② 教科学習以外に個々の興味関心に応じた学びの場の提供や拡大
ひとつのことを深く学ぶことに加え、児童生徒に新しい経験や気づきを与えるような広がる学びの提供

(4) 地域の取組・課題（高齢者）

○杉並区高齢者実態調査報告書（令和5年3月）

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

調査対象①：要支援・要介護認定以外の65歳以上の区民から7地域別に無作為抽出した2,500名

調査対象②：要支援1・2の65歳以上の区民から7地域別に無作為抽出した2,500名

調査対象①②の合計：5,000人

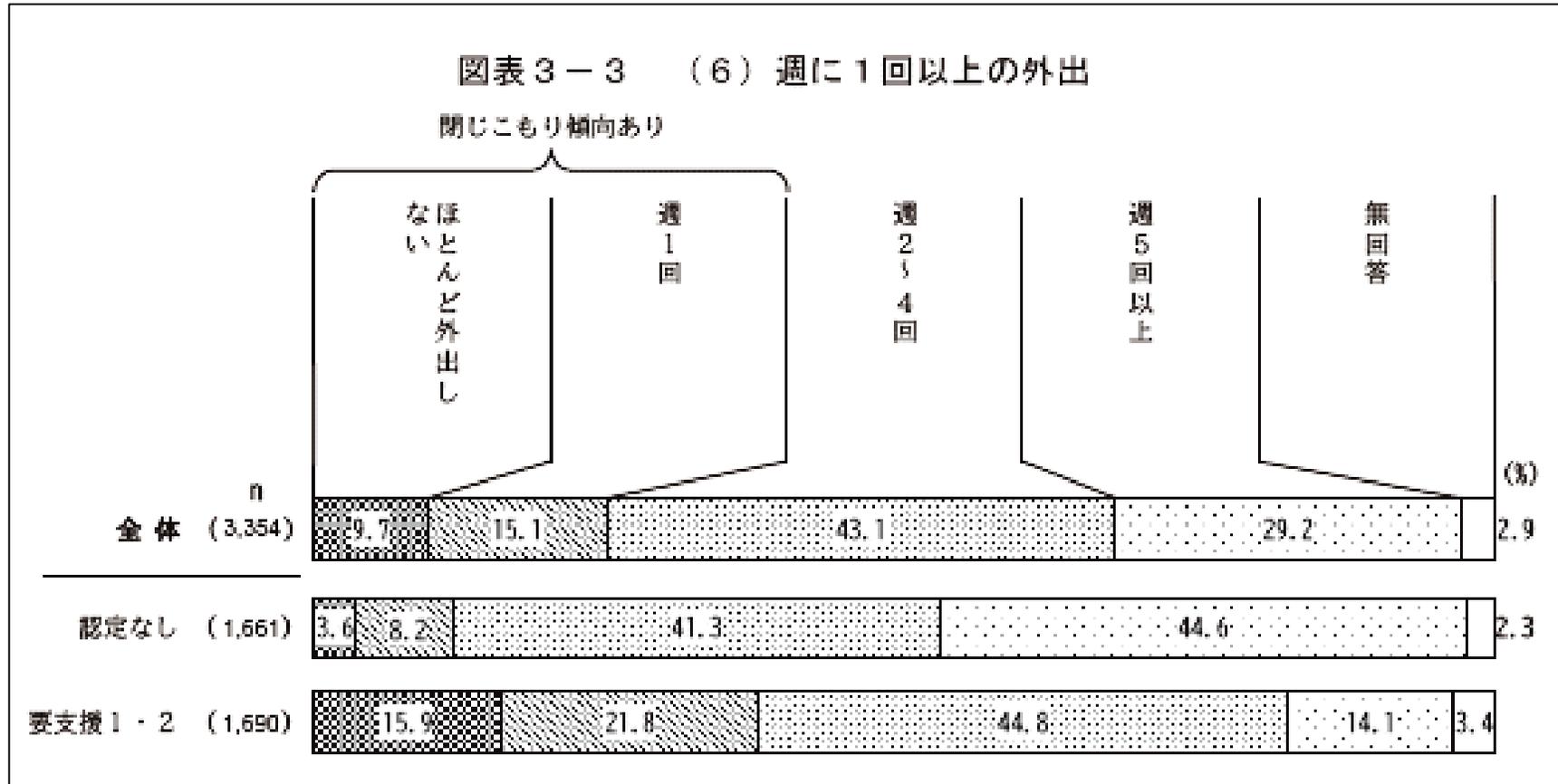
調査期間：令和4年10月14日～11月4日

回答人数：3,354件（回答率67.1%）

回答人数内訳：調査対象① 1,661件

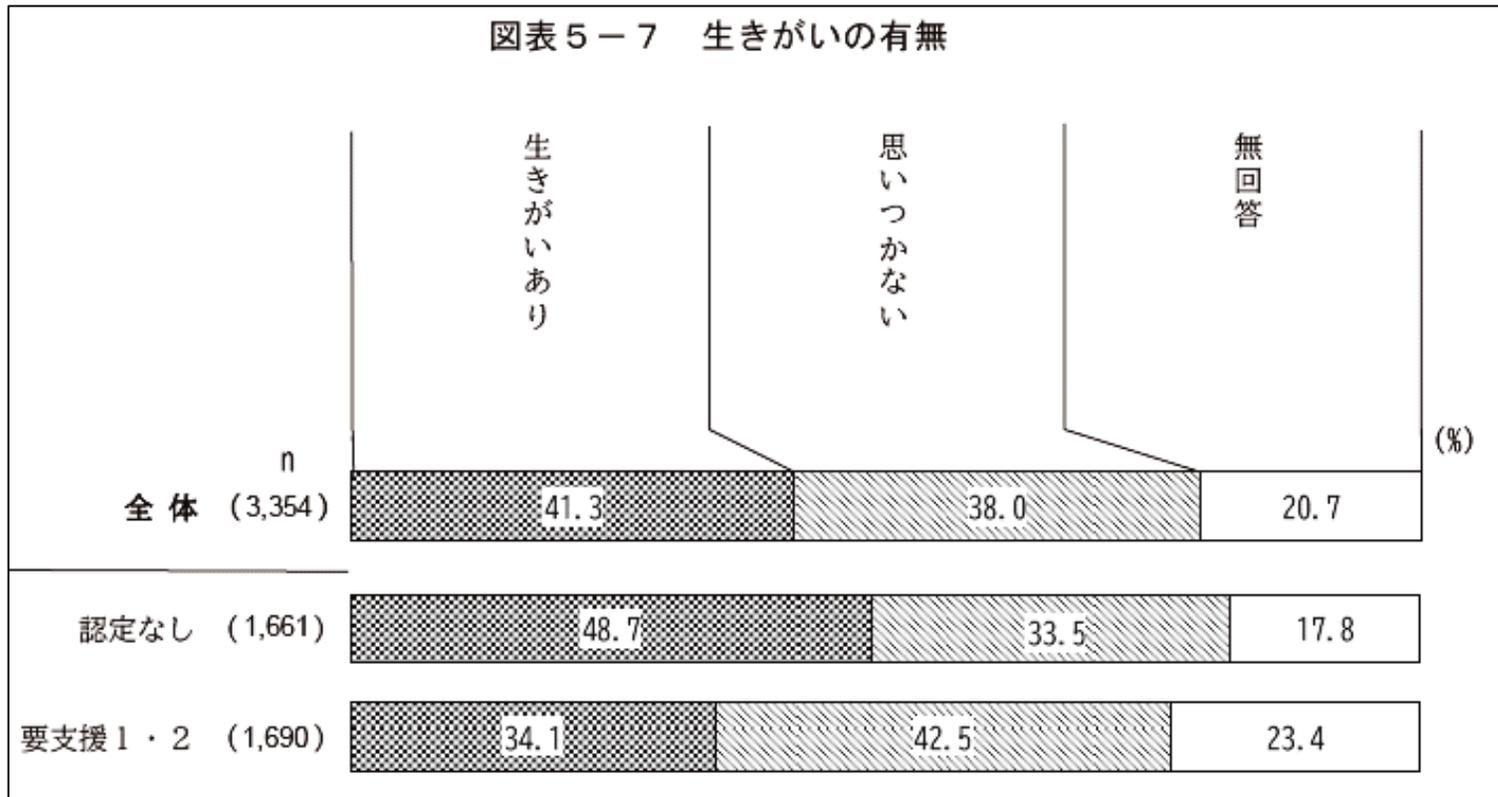
調査対象② 1,690件

問5(6) 「週に一回以上は外出していますか」



- ・ 「ほとんど外出しない」 (9.7%) または 「週1回」 (15.1%) と回答した件数の合計は **24.8%**
⇒閉じこもり傾向あり

問7(18)「生きがいがありますか」



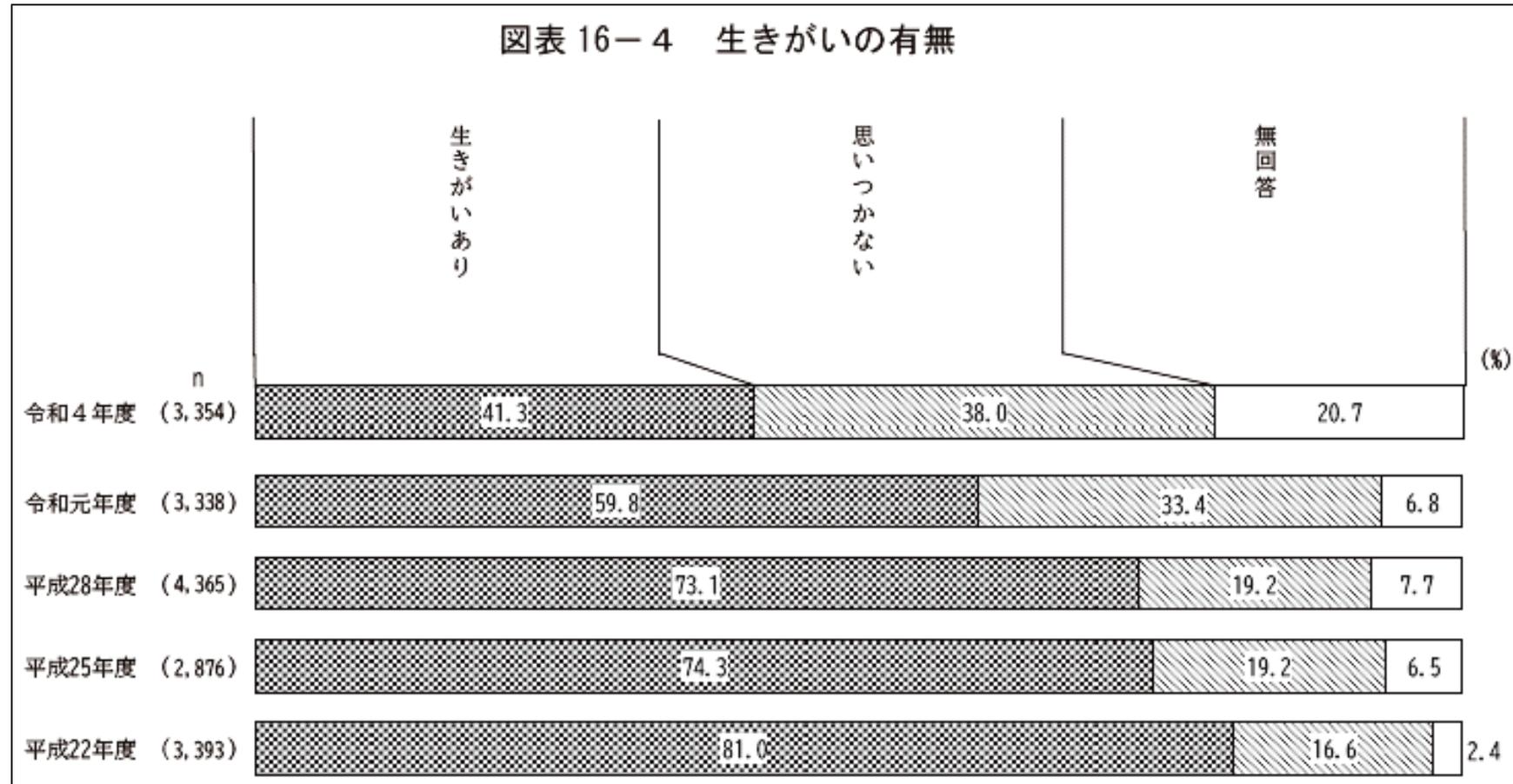
図表5-8 生きがいの内容（上位10項目）

項目	件数
孫、ひ孫のこと	354
家族、親族のこと（孫、ひ孫のこと以外）	130
仕事	112
旅行	102
健康管理	78
友人、知人	76
趣味（と回答した人）	74
食事、酒	55
音楽	50
読書、勉強、研究	45

・ 「生きがいあり」：41.3% 「思いつかない」：38.0%

・ 生きがいの内容については「孫、ひ孫のこと」（354件）、「家族、親族のこと（孫、ひ孫のこと以外）」（130件）、「友人、知人」（76件）など子どもを含む人との繋がりが生きがいになりやすい傾向が伺える。

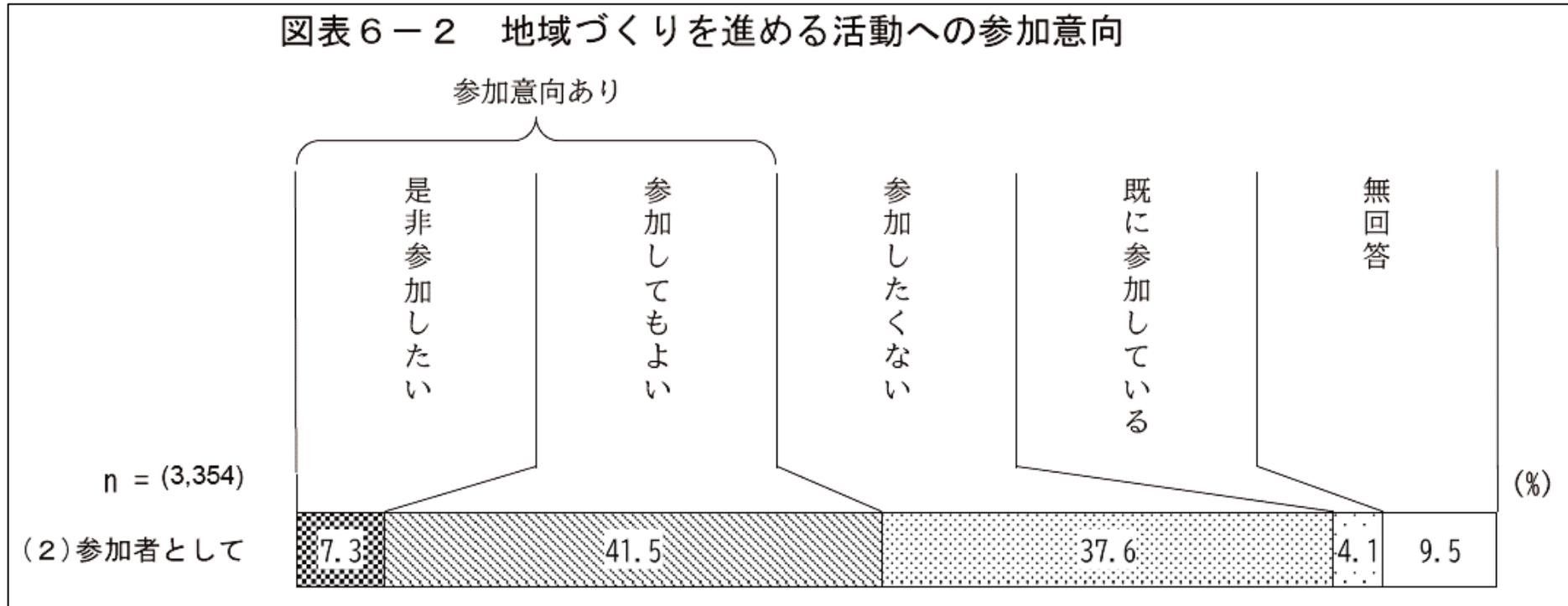
問7(18) 「生きがいがありますか」 (経年比較)



- 「生きがいあり」は平成22年以降減少傾向にあり、令和4年度は41.3%
⇒ 令和元年度から18.5ポイント減となっている。

問 8 (2)

「地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。」



- ・ 地域づくりを進める活動に「是非参加したい」(7.3%)と「参加してもよい」(41.5%)を合わせると48.8%

(5) 地域特性を踏まえたコミュニティふらっと本天沼の運用例

○「個別最適な学び」の支援

- ・ ラウンジ等を使用した小中学生への学習指導
- ・ 多世代交流イベントやラウンジの掲示コーナー等で、作品を展示し、披露・発表する場を設ける

○「防災」に係る取組

- ・ 多世代交流イベントでの防災スタンプラリーを実施する
- ・ 杉並区の中学生レスキュー隊（防災活動）との連携した事業を検討する

○自主運営事業

- ・ 昔遊びや伝統文化にふれるなど、直接経験が得られる場を設ける
- ・ 高齢者から地域の子供たちに教える場を設けることで多世代の交流を図る
- ・ 自主運営事業の参加者に対して、共通の趣味を持ったグループとしての活動をしないか働きかける